

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	音楽 I			単位	1	単位
対象コース	一貫・進学・総合	コース	対象クラス	1	年	1～5	組	
使用教科書	ON! 1							
使用副教材	音楽之友社							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目標とします。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容 歌唱・器楽、創作による表現活動及び鑑賞の幅広い活動を通じて、文化的・歴史的背景を理解し、表現形態の特徴を生かした技能を創意工夫する。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 歌唱・器楽演奏を中心に活動するため、発声、言葉の発音、身体の使い方を身に付け、積極的に調和を意識して活動に取り組みましょう。 (2) 家庭 音楽のよさや美しさを自ら味わって、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、意見を述べられるようにしておきましょう。

3 この科目の評価方法について

評価の観点：何を使って評価するのか (1) 知識・技能 曲想と音楽の構造や、音楽の多様性を理解しているのか。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表現しようとしているか。 →技能テスト（歌唱、演奏）、定期考査、行動観察 (2) 思考・判断・表現 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにしているか。 →技能テスト（歌唱、演奏）、行動観察 (3) 主体的に学習に取り組む態度 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているか。音楽を愛好し、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽により生活や社会を明るく豊かにしようとしているか。 →行動観察、提出物、定期考査

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
1	4	・校歌 ・賛歌	・二高生としての自覚をもつとともに、自校を愛好する心情を養う。 ・1番歌詞を暗記し、2人ずつ歌唱テストを実施する。 ・賛歌CDを聴き、主旋律を歌う。	○	○	○	
		・楽典・楽譜の知識 ・音名・リズム・拍子 ・反復記号	・音楽の基礎である音附・休符・記号などを学び、曲の構成・進み方を理解する。	○	○	○	
		5	・翼をください ・花は咲く	○	○	○	
	6	・'O sole mio	・イタリア カンツォーネの発音・発声を学び、世界の音楽との歌唱法の違いを体験する。 ・イタリア語歌詞で発音し、発声を工夫して、2人ずつ歌唱テストを実施する。	○	○	○	
		・鑑賞オラトリオ「メサイア」	・第39曲「ハレルヤ」、第47曲「アーメン」を中心にDVDを観ることで、より身近に感じられるようにする。	○	○	○	
		第2回定期考査	・歌唱曲、楽曲、鑑賞教材を範囲とする。(4～6月)	○	○	○	
	7	・器楽、音階「ふるさと」 道徳	・キーボード、ピアノの指使いなど基礎から練習し、簡単な「ふるさと」のメロディーを弾けるようにする。	○	○	○	
	2	8	・少年時代	○	○	○	
		9	・Heidenröslein	○	○	○	
		10	・小さな空	○	○	○	
2	11	・Caro mio ben	・芸術歌曲のCDを参考に聴き、歌唱法により、どのような影響を受けるか感受して歌う。	○	○	○	
		・楽曲・音程	・2人ずつ原語イタリア語唱テストを実施する。 ・2音間の音の隔たりを音程ととらえ、例えば、玄関のチャイムが3度等、生活の中で使われていることを知る。	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
2		・鑑賞「ブランデンブルク協奏曲」	・バロック派 J. S. バッハについて学び、音楽の歴史について理解を深める。	○		○	
		第4回定期考査	・歌唱曲、楽曲、鑑賞教材を範囲とする。 (9～11月)	○		○	
		12・器楽 Yesterday	・キーボード、ピアノを演奏し、リズムや ＃、♭の演奏法も体得する。		○		
3	1	・A Whole New World	・英語による発音の仕方を学び、歌い方を工夫して楽しむ。	○	○		
		・ミュージカルが出来た背景、特徴を学び、そのよさを味わって歌唱する。		○	○	○	
		2・鑑賞 オペラ 「トウランドット」	・有名な「誰も寝てはならぬ」のメロディが、オペラの中の曲であると知り、総合芸術としての歴史的・文化的な価値を感じ取ることができる。	○		○	
							
	3	・賛歌	・混声四部合唱の音楽の重厚感を理解し、各パートの旋律を確実に覚え歌唱する。	○	○	○	

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	デザイン	単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1	年	6.7 組
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

デザインは用途があって制作されるもので、グラフィック、プロダクト、インテリア、建築、映像など多岐な分野に渡る。

1年次ではデザインの考え方を学び、デザイン実習の基本要素として最低限必要な課題の実習を目標とする。またコンピューターグラフィックスの基本操作も実習する。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

平面構成はデザイン実習の基本となる課題で、1は色彩論を応用した配色研究。2は言葉のイメージを視覚的に表現する平面構成である。

コンピューターグラフィックスはフォトショップの基本操作を学ぶが、単にその技術を習得する時間ではなく、デザインの様々な課題の中に組み入れて実習される。

1月にCGで制作する作品は、情報を第三者に分かりやすく印象的に伝えるためのデザインの課題。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。

(2) 家庭

夏期休業と冬期休業に出題されるコンクールに向けた課題の制作

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

完成した作品によって評価する。

技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。

各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

課題を理解し、目的を持って思考する力、アイデア

(3) 技能・表現

構成力、色彩感覚、表現力、描写力

(4) 知識・理解

コンピューターグラフィックスの知識と理解

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	5	■「コンクールポスター1」 9産業と技術革新の基盤をつくろう 12つくる責任つかう責任 道徳	「ポスターコンクール応募」 連休中の自宅課題約 コンクールに出品する作品を制作する家庭課題 「暴力団追放」「防犯ポスター」 以上から一つを選んで制作し出品する ※画材、用紙のサイズは各コンクールの規定にあわせる。 道徳教育を実施	●	●	●	●	
1	5 ～ 7	■「平面構成1・色彩演習」 9産業と技術革新の基盤をつくろう 12つくる責任つかう責任	「平面構成1・色彩演習」 B3ケント紙にアクリルガッシュ 18時間 配色を検討する段階ではCGを使用 4月から5月にかけて学習した色彩論を確認し、応用した課題。 コンピューターグラフィックスの基本操作も学ぶ。 平面構成の基礎課題。 以下の条件で配色を決めて制作 A＝色相が対照的／B＝色相が類似 C＝明度が対照的／D＝彩度が対照的 E＝寒色／F＝暖色 G＝トーンを類似させ、色相に変化をつける H＝トーンに変化をつけ、色相を類似 評価のポイント 条件を満たした配色であること G・Hは条件内でより美しい配色であること 作図が正確で仕上げがきれいであること	●	●	●	●	
2	7 ～ 8	■夏期ゼミ課題 「平面構成2・色と形の効果」 9産業と技術革新の基盤をつくろう 12つくる責任つかう責任	夏期ゼミ課題 「平面構成2（アルファベットをモチーフとする）」 B3ケント紙にアクリルガッシュ 18時間 配色を検討する段階ではCGを使用 平面構成の応用課題。 与えられた条件の理解。 コンピューターグラフィックスを効果的に使用しながら、色と形の構成により如何に言葉のイメージが伝わるのか模索していく。 与えられた条件の理解。 ■評価基準 条件を満たした配色であること G・Hは条件内でより美しい配色であること 作図が正確で仕上げがきれいであること	●	●	●	●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
2	7 ～ 8	■「コンクールポスター2」   	「ポスターコンクール応募」 夏季休みの自宅課題約 コンクールに出品する作品を制作する家庭課題 「緑化運動」「防火運動」「薬物禁止運動」 「明るい選挙」 以上から一つを選んで制作し出品する ※画材、用紙のサイズは各コンクールの規定にあわせる。 道徳教育を実施	●	●	●	●	
2	12 ～ 1	■「エディトリアルデザイン」  	■冬期ゼミ課題 「雑誌のページを想定したレイアウトデザインの制作」 14時間 A3サイズ、横、CG タウン誌のような、身近な所を紹介する雑誌を想定し、テーマをみつけ、資料を集める。 地図、施設案内図をデザインする。 資料を基にして、視覚的に美しく、読みとりやすくデザインされた雑誌ページを制作する。 魅力的な情報が盛り込まれており、より分かりやすく、興味を引くデザインを目指す。 完成後プレゼンテーションを行う。 ■評価基準 テーマに対してアプローチが正しい判断であるか。効果や対比が的確であるか。 丁寧な仕事運びが為されているかどうか。	●	●	●	●	
		■「コンクールポスター3」   	■「コンクールポスター3」 コンクール出品に対応したポスターの制作 冬期休業の自宅課題 「県高総体ポスター他」 ※画材、用紙のサイズは各コンクールの規定にあわせる 冬期休業明け、放課後仕上げる。	●	●	●	●	

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	絵画	単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1	年	6.7 組
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

絵画では絵画表現全般を実習する。油彩、透明水彩による着彩等、各画材の組成と特性を知り、基本的な使用法を学ぶ。
デッサンで実習した表現を色彩に置き換えた制作を習得する。
2年次以降に制作する大型の作品、また自由制作につなげる準備段階として、多様な絵画表現を目標として学習する。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

「スケッチ演習」
年間1回の課題。1学年は構図の取り方等、風景画の基礎と透明水彩絵具の効果的な使い方を学ぶ。
「着彩・静物」
透明水彩絵具と不透明水彩絵具の基本的使い方と違いを実習。確かなデッサン力と色彩表現を学ぶ。
「油彩・自画像」
油彩画の基本的使い方を実習。自画像をモチーフに、人物画を学ぶ。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校
主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。
スケッチは美術コースの行事、「校外スケッチ実習」で2日間、野外に出かけて制作する。
その後各自で加筆して仕上げる。

(2) 家庭
無し

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

完成した作品によって評価する。
技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。
各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

画面全体を構成する総合的判断力

(3) 技能・表現

構成力、色彩感覚、表現力、描写力

(4) 知識・理解

透明水彩、油彩、アクリル絵具等、画材知識の理解度

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	5	「風景スケッチ」   	「風景スケッチ」 約10時間 校外スケッチ実習で制作。 F6サイズ画用紙 パネルに水張りし、透明水彩絵具で描く 水張りの実習 構造物を含む風景のスケッチ実習 道徳教育を実施	●	●	●	●	○
2	10 ～ 11	「着彩・静物」  	「着彩・静物」 27時間 B3サイズ画用紙パネルに水張り 透明水彩絵具で描く 水彩絵具の基本的な使い方 静物セットをモチーフにした描写表現	●	●	●	●	○
2	11 ～ 12	「油彩・自画像」  	「油彩・自画像」 30時間／F10キャンバスに油彩 8～9月に実習した自画像木炭デッサンからの展開 油絵具と即乾剤等油彩制作補助具の基本的な使い方を学ぶ 自画像人物の効果的な画面構成を実習	●	●	●	●	○

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	日本画	単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1	年	6.7 組
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本画の授業では、膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習し、また日本画特有の空間表現を学ぶ。

1年次は日本画の基礎として、デッサン力を養い、観察と細密描写を中心とした課題で実習する。

静物描写の課題のなかで絵具、素材に対する表現技術を習得する。主に顔彩を使用し、来年度以降に向けて岩絵具の実習も盛り込みながら、日本画の基礎実習を目標とする。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

日本画は専門講師が指導し、画材等のセッティングが大掛かりなため、約1ヶ月の集中授業の形式で学習する。1年次では日本画実習の基本となる、水彩による写生を中心に実習し、併せて日本画材の基礎も学ぶ。

画材は「顔彩」を主に使用し、岩絵具は背景のみ使用する。顔彩はこれまで使用してきた水彩絵具と扱い方が同じである。モチーフはスルメと野菜、果物などの自然物の組み合わせを予定。スルメは複雑な色作りと、徹底した細部の描写を学ぶのに適したモチーフである。

彩色に入る前に墨描きを実習し、筆による線の抑揚で形の変化を表現する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。

放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。

(2) 家庭

無し

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

主に完成した作品によって評価する。

技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。

各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

画面全体を構成する総合的判断力

(3) 技能・表現

デッサン力、色彩感覚、表現力

(4) 知識・理解

日本画画材の知識と理解

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	6 ～ 7	「日本画Ⅰ」 ・ 静物デッサン ・ 墨線描き ・ 岩絵の具で地塗り 岩絵の具の基本的知識 膠の扱い方 ・ 顔彩で描く   	「日本画Ⅰ・静物」26時間 F6サイズ 雲肌麻紙をパネルに水張りして描く 顔彩使用 地塗りは岩絵の具使用 モチーフはパンと野菜や果物など、自然物との組み合わせ ①F6サイズの画用紙にモチーフをデッサンする ②雲肌麻紙を水張り ③下絵をパネルにトレースダウン ④墨で線描き 線による表現の実習 濃淡3段階の墨で線に強弱をつける ⑤岩絵具で地塗り 白群青・白緑青・黄土・岩桃 コバルトバイオレット・若葉 粒子の最も細かい「白」を使い、岩絵具の粒子について知る 岩絵具を膠で溶く技法を学ぶ ⑥顔彩で描く 綿密な観察 水彩絵具による細密描写 道徳教育を実施	●	●	●	●	○

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	美術Ⅱ	単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1	年	6.7 組
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

1年生美術Ⅰでは、①デッサン、②美術理論（色彩論と透視図法）、③彫塑という3つの領域で学習する。
 ①本コースの実技指導は、綿密な観察力と描写力を土台としているため、デッサンの実習には最も力を入れて学習する。
 1年次では基本的な物の見方、表現方法の習得を目標とする。
 ②美術理論、色彩論は作品の色彩計画の基準となる知識を学習する。
 3学期の最後には各種の透視図法を学び、アトリエの室内を描いて実習する。
 ③彫塑の課題は年間1回実習する。全方向からのデッサン力を養い、形の構造を理解する上で非常に重要な課題である。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

①はデッサンの基礎演習の実習。1学年前期では基本形体の描写、素描画材の扱い等、基本的な部分を確実に修得し、後期は自画像等発展的なモチーフを描く。
 ②美術理論では、前期は色彩論を学習する。色相環の理解、色の三属性の理解から、色彩論を応用した配色の演習を行う。
 ③彫塑では、立体造形の最初の課題として「握った手」をモチーフに、彫塑用粘土を使って制作する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

デッサンと彫塑は主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使う学習をする。

(2) 家庭

色彩論は、定期考査で出題されるため、自宅での予習、復習が不可欠である。

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

①デッサン、③彫塑は主に完成作品で評価する。技能的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。
 各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
 ②色彩論は、主に定期考査で評価する。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。また授業中の態度、課題提出状況等を平常点として加える。

評価における定期考査の割合

50 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

デッサンでの総合的判断力、色彩論・図法の知識を応用する力

(3) 技能・表現

デッサンでの描写力、表現力、彫塑での造形力

(4) 知識・理解

形態の構造や遠近法、色彩論、透視図法の理解度

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4 ～ 5	「静物デッサン 基本形体の描写」 	「立方体、球体、円柱のデッサン」 使用教室第1アトリエ 15時間／A3画用紙／鉛筆 配布されたモチーフを鉛筆デッサンする 描写を理解する上で基本となる、立方体、球体、円柱の描写表現を理解する。 木の立方体、テニスボール、紙コップをモチーフに描く。 鉛筆、練り消しゴムなど用具の使い方 構図 基本形体の把握 明暗の表現 質感の表現 空間の表現	●	●	●	●	
1	5	「色彩論」 色彩の基礎知識の学習   	「色彩論」6時間 使用教室：第2コンピューター室 色彩の基礎知識を学習。色の基本的な要素を学び、それを使って類似や対照、面積や配置などを配色の演習を行う。学習内容を今後のデザイン、絵画制作に活かす。 5月に実施するデザインの課題「平面構成色彩演習」と連動した課題 ユニバーサルデザインを通し道徳教育を実施	●	●	●	●	
1	5	「第1回査 色彩論」 筆記試験   	「第1回査・色彩理論」 25分／筆記試験 授業内容の理解度を確認する筆記試験。 色相環の理解 色の名称 色の明度、色相、彩度の理解 三原色の理解 トーンの名称 色彩論を応用した配色の理解	●	●	●	●	
1	6	「第2回査 デッサンコンクール」 	「第2回査静物デッサン」 2時間／配布モチーフ／ コンクールサイズ 画用紙／鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●	●	
2	8 ～ 9	「自画像 木炭デッサン」 	「自画像 木炭デッサン」 鏡に映る自画像を描く 18時間／木炭紙／木炭 明暗で大きく形態をとらえる描き方を学ぶ。 木炭と木炭紙の使い方を学ぶ。 11月が実習する自画像油彩につなげる。	●	●	●	●	
2	10	「第3回査 デッサンコンクール」 	「第3回査 デッサンコンクール」 3時間／手のデッサン コンクールサイズ／鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●	●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		「第4回考査 静物デッサン」 	「第4回考査 手の構成デッサン」 90分/A3画用紙/鉛筆 手、自然物、縄や針金等変形できるものを組み合わせて構成して描く。					
3	1 ～ 2	「彫塑 握った手」 	「彫塑 握った手」 冬ゼミ21時間/彫塑用水粘土 一番身近なモチーフである手は、基礎的な課題でありながら、繰り返しの訓練が重要なモチーフである。 立体で実際に制作することによって、対象物を映像的にではなく、存在感のある立体として把握し、平面的制作において、空間や立体を認識した上での表現が出来るよう体験させることが目的。	●	●	●	●	
3	2 ～ 3	「静物デッサン セットモチーフ」 	「静物デッサン セットモチーフ」 18時間/B3画用紙/鉛筆 セットモチーフを描く課題 イーゼルを使用して描く。 正しいデッサンの姿勢について学ぶ 構図の取り方について学ぶ モノトーンの明暗の色幅について学ぶ 制作における時間配分を学ぶ 対象物の構造的な理解 表現における観察を通して質感について考える 上記の総合的完成度によって評価する	●	●	●	●	
3	2	「第5回考査 静物デッサン」 	「第5回考査 静物デッサン」 115分/A3画用紙 卓上配布モチーフ 基礎の確認 ワイングラス、布、レモン	●	●	●	●	